

# もっと もっと あーとの時間



いよいよ年度末がせまってきましたね。学習の評価やまとめなどたくさんやらなければならないことがあり、大変ですね…。図工では特に、「鑑賞の評価がしにくい」という声をよく耳にします。そこで、今回は鑑賞を評価するときに参考となる活動を紹介します。」

## 【勝手にネーミング大会】

→友達の作品やいろいろな作品などから感じられるよさを題名にします。

## 【ピンポイントスケッチ】

→いろいろな作品のよいと思うところをスケッチしながら味わい、より深い鑑賞へとつなげる。

## 【詩や物語を書く】

→その作品から強く感じたことをテーマに文字や文章に表す。他者の感じ方の違いも知ることができる。  
→聞こえてきた「音」や「会話」なども低学年ではおもしろいです。

## 【ワンポイントトーク】

→丸い穴を開けた円(裏に磁石)を作品のお気に入りのポイントにはり、お気に入りの理由を話します。

## 【アートカード仕立て】

→とった写真を使ってゲームをしながら鑑賞します。  
→作品自体を並べてカードに見立ててもできます。  
①ペア作り…ペアにしたい理由もいいます。  
②つながり見つけ…色や形、モチーフ、テーマなどつながりのあるものでトークをします。  
③ストーリー作り…何枚かを選んでお話を作ります。  
④クイズ式…3ヒントクイズなど。  
「この絵はどれでしょう？」

## 【大撮影会】

→特に立体作品鑑賞におすすめですが、自分の気に入った角度から写真におさめます。感想や一言アピールを書くとGOOD!!



## 作家等の 作品の鑑賞



作家作品等の鑑賞については、「どう解釈していいか教師自身が分からない」「どの程度、一般的な解釈を伝えるべきなのか」などという声をよく聞きます。しかし、作家の背景や作品の解釈を行ったり、指導者の主観を押しつけるのが鑑賞の授業ではありません。

むしろ教師自らの「見て楽しむ」スタンスが大事なのであって、子ども達の反応やつぶやきを共有し、ひろげながら、さらにみんなで楽しめるようにするのが教師の役割ととらえてはどうでしょう。子ども達同士のいろんな「対話」が生まれる鑑賞こそがすてきなのです。(そのためには比較鑑賞がやりやすいので、対照的な2作品を並べて行うとやりやすいです。)  
「一緒に」発見し、楽しんでみては？